

平成21年度

FD 活動報告書（個人）

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 原田 幸雄

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・研修会名など	平成21年度独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修 (管理職研修)
関連部署	
実施年月日	平成21年9月9日～12日
実施場所等	独立行政法人教員研修センター
参加対象・参加人数等	各高等専門学校の管理運営、教育研究活動において中核的役割を担う教員・55名程度
具体的内容 (概略)	<p>本研修会は学校管理運営、教育課題などに関する高度・専門的な知識を習得させ各高専の中核となる教員の経営能力の育成・向上を図ることを目的として2日間にわたり、主に講義を中心に行われたものである。</p> <p>1. 講義1『青年の心理と学生理解』（講師：早稲田大学 教授 河村 茂雄） 現代は、個々の年齢の発達段階に応じた自己概念が形成されないままで成人しているため、自我同一性を確立できていないという問題を抱えた青年が多い。すなわち、自我と超自我の両方の脆弱さがあり、幼時的自己中心的傾向（傷つきやすさと尊大さが同居している）があるため、苦痛な面には触れないまま現実とかかわる青年が多いのである。そのような青年の発達を支援するには、準拠集団への所属感・人とかかわる集団体験学習が不可欠で、学校においても計画的・継続的な支援が不可欠である。そこで個々の学生がより自己実現できるような援助を適切に行わなければならない、まずは学生個人の特性、環境・クラス集団の状態、集団と個人との関係性などを十分に理解しておく必要がある。その手法としては観察法、面接法、調査法などが考えられるが、調査法の一つの手法としてQ-Uによる方法が詳しく示された。学生個々人の学習意欲やクラスとの関係性がグラフに現れるほか、クラス全体の状況がグラフに形として現れるというメリットがあり、担任にとってはクラス経営上、また問題を抱える学生の早期発見や指導に当たって非常に有益な情報になり得る。経験とか勘だけの漠然とした学生理解ではなく、分析的理解をすることで、教師の心の健康維持もできて、それが学生への指導・援助の原点となる。学生課としてもクラス担任と連携をとりながら問題の解決にあたりたい。また、クラブ活動・学生会活動など学生の適性・特性・本音が現れる集団の場においても適切な指導・援助が必要だと感じた。</p> <p>2. 講義・演習1『教職員のメンタルヘルスマネジメント』（講師：昭和学院短期大学 教授 松田 素行） 教員の病気休職者の数は年々増加の傾向にあり、中でも特に精神性疾患による休職者の割合が増え続けている。教員の「心の健康」が損なわれることは、本人にとって大きな問題であるばかりではなく、子どもたちや、さらには学校運営にも重大な影響を及ぼしかねない。そこでリーダー教員としてはどのように取り組</p>

んでいけばよいのかを学ぶ研修であった。教員のストレスの要因としては、生徒指導、管理職・同僚との人間関係、異動・多忙、保護者との人間関係、公務分掌などが考えられる。教師としての適性として、子どもの気持ちを理解できるデリケートな性格、強い責任感、真理真実・美などをとことん追求する探究心などあげられるが、これらはみんなストレスを感じやすい資質である。従ってとかく熱中型の先生、夢を持って教育理念を現実化する意欲と力量のある教育者として有能な先生が燃え尽き状態になりやすく、終にはストレスが原因の心身症あるいはうつ病になってしまうことにもなる。そこでリーダー教員のためのメンタルヘルスマネジメントのポイントは、①日常的な取り組みとして・教員一人ひとりに「自分の健康は自分で守る」、「自分の心身の変調に気づく」という意識を持たせる。・校内の良好な人間関係に基づいた互いに支えあう組織環境を確立する。②問題に気づいたときの取り組みとして・早めに変調に気づき、共感をもって話を聞く。・状況を見分け、適切な対応をとる。③医療機関での診察については・本人に受診を勧める場合は、当該教員が安心感をもてるように配慮する。・広義の治療方針を決定する際は、医師と本人だけに任せるのではなく、管理職も加わり、連携を図るのが望ましい。④復職時の取り組みについては・復職時には、同僚の教職員の理解や協力を得るようにする。・職場復帰訓練は計画的なプログラムに基づいて行う。ということであった。

3. 講義2『学校のリスクマネジメント』

(講師：パームコンサルティンググループ 代表 伊原正俊)

学校全体をリスク・危機から未然防止するための危機管理についての研修であった。危機管理には、3つの局面、「平常時の危機管理」、「緊急時の危機管理」、「収束時の危機管理」がある。このうち「平常時の危機管理」についての講座であった。危機管理は、「リスク」を認識することから始まる。「リスク」はどこにでもあり、絶対になくならないという認識が必要である。

平常時の危機管理は「風通しのよい職場を作る」ことと「危機管理は全教員の必須マターと認識する」ことである。普段日常において、①「ちょっと変だな?」、「大丈夫かな?」という意識を持ち仕事をしているか ②コンプライアンス(法令順守)をはみ出した行為をしていないか ③社会的責任または道義的責任から見て、問題はないか ④学生らの立場と目線、市民の顔を思い浮かべて行動しているか ⑤職場の“疑義事項”を「ミザル、ワザル、キザルの三猿主義」でウヤムヤにしていないか ⑥一つのクレームにも、迅速・的確に誠意を持って対応しているか ⑦そのことを誰(学生らや保護者・市民・関係当局)に対しても堂々と説明できるか ⑧新聞社の社会部記者が知っても、問題にならないか ⑨高等専門学校の常識ではなく、社会の常識で判断しているか ⑩危機管理の失敗例として参考になる報道記事を「リスク記事」として教訓にしているか という10の行動指針を全教員が持つことで危機を防止できる。全教職員の一人ひとりの自覚が求められている。

4. 講義・演習2『教員の人間関係作り～コーチングの手法に学ぶ～』

(大分県消費生活・男女共同参画プラザ 主幹 佐藤 敬子)

コーチングとは「相手の優れた能力を引き出しながら、前進をサポートし、自発的に行動することを促すコミュニケーション・スキルで、最短の距離(時間)で成果が上がるよう継続的にサポートしていく双方向なコミュニケーションである。」コーチングの基本スキルは次の5つである。①「パラダイムをとく」のスキル…先入観、自分の常識、好き嫌い、トラウマ、潜在意識、思考パターンによる行動ではなく、自分と他人との違いを認めながらコミュニケーションする能力を身につけること… ②「きく」のスキル…コミュニケーションは「相手を受け入れること」からであり、彼がやっていること (doing)、彼が何を感じているか

(feeling)、組織の一員ではなく「人」としてどうなのか (being)、この3つの ing を総合的に判断し、彼の中にある可能性に意識を向けること… ③「承認」のスキル…相手に関する事実をそのまま伝える認め方、相手のしたことや存在が、自分にどんな影響を与えているかを伝える認め方、相手との関係が、お互いの間にどんな影響を与えているかを伝える認め方がある… ④「効果的な質問」のスキル…限定質問より拡大質問、否定質問より肯定質問、提案する、というふうに心がける… ⑤「チャックダウン」…職場に行くのが楽しくなるようにしたい…と「チャックアップ」…今、すべき行動はなんのために必要なのか…

啐啄同時という言葉があるが、今だという、2度とない時機をとらえて双方の人間関係作りをせねばならないこともある。職場における様々な人間関係作りを生かしたい。

5. 講義3『スクールコンプライアンス』 (講師:日本女子大学 教授 坂田 仰)

1990年以前は、学校と子ども、保護者、地域住民の間において、人間関係を基礎とする信頼関係重視型の「学校観」があったが、1990年以降は、契約を基礎とする権利・義務関係重視型の「学校観」に変わってきている。そうしたことから教育訴訟も権利・義務関係重視型が多く、教員の地位も原告側から被告側へ、いきなり裁判所やマスメディアに持ち込まれるケースが急増し、結果、法的に裁かれるケースが多くなってきている。そのような事態に対応していくには、以下の3点が非常に重要である。

- ・ 教員自身のコンプライアンス意識の向上
- ・ 管理責任の所在の明確化
- ・ 説明責任を果たす (ホームページや学校 (学級) 通信なども非常に重要)

また、最大の利害関係者 (ステイクホルダー) である児童・生徒が最善の利益を得られることを意識した学校経営 (調整的学校経営) が重要である。そのためには、ステイクホルダーとしての保護者・地域住民の目線を意識し、「内向きの学校経営」から「外向きの学校経営」へとビジョンを提示していくことである。

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 天内 和人

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	学位授与事業に関する協議会
関連部署	専攻科
実施年月日	平成21年4月4日
実施場所等	東京、一橋記念講堂（学術総合センタービル 2F）
参加対象・ 参加人数等	認定専攻科を置く短期大学及び高等専門学校の教員及び事務職員
具体的内容 （概略）	学位授与制度、特に学修成果と小論文試験・面接試験に関する説明、及び本事業に関する質疑応答。

活動名・ 研修会名など	日本工学教育協会「工学（融合複合・新領域）関連分野」審査講習会
関連部署	専攻科
実施年月日	平成21年7月25日
実施場所等	東京、芝浦工業大学豊洲キャンパス
参加対象・ 参加人数等	日本工学教育協会会員
具体的内容 （概略）	日本工学教育協会による「工学（融合複合・新領域）関連分野」の教育プログラム認定審査にあたる審査員養成のための講習会

活動名・ 研修会名など	神戸女学院大学主催カウンセリングシンポジウム「不登校学生をいかに支援するか」
関連部署	学生相談室

実施年月日	平成21年8月22日
実施場所等	神戸女学院大学
参加対象・参加人数等	高等教育機関において学生相談、カウンセリングに関わる教職員
具体的内容(概略)	不登校状態にある学生の支援について、学生支援者(学生相談室担当者、教職員、保護者)の連携促進、教育機関全体での支援体制の構築、ピア・グループの導入等、優れた取組み事例を紹介する。

活動名・研修会名など	平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」
関連部署	専攻科
実施年月日	平成22年1月7日～8日
実施場所等	東京、東京ビックサイト
参加対象・参加人数等	高等教育機関教職員
具体的内容(概略)	全国の高等教育機関で実施されている優れた教育プログラムの紹介、および、それらの取組みに関するフォーラムの開催。

活動名・研修会名など	日工教育ワークショップ「エンジニアリング・デザイン教育」
関連部署	専攻科
実施年月日	平成22年3月6日
実施場所等	東京、工学院大学
参加対象・参加人数等	日本工学教育協会会員
具体的内容(概略)	JABEEの規定する日本技術者教育認定基準の基準1で求められているデザイン能力に関して、「エンジニアリング・デザイン教育の重要性」についての基調講演、ついで取組み事例紹介とともに、グループ討議を実施した。

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 長廣 恭子

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・研修会名など	平成21年度独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）
関連部署	教務主事室
実施年月日	平成21年8月17日～18日
実施場所等	独立行政法人教員研修センター
参加対象・参加人数等	各高等専門学校から推薦されたクラス経営の中心的役割を担う教員・110名程度
具体的内容（概略）	<p>本研修会の概要については、中川教員の報告にあるので省略させて頂く。講義内容に関しても、中川教員同様、1.「クラス経営と学生理解」（早稲田大学 河村茂雄教授）、5.「スクールコンプライアンス」（日本女子大 坂田仰教授）が、本校の現状に対し非常に有意義な内容であったと思われる。また、4.「学生の心のケア ～自殺防止に向けて～」(文教大学 柳生和男教授)も、「クラス経営と学生理解」と関連して、このような場合も起こりうることを想定して担任に臨まなければならないと考えるので、この3つの内容に関して少し補足させて頂く。</p> <p>1. クラス経営と学生理解 (講師：早稲田大学 河村茂雄教授) 現代の青年達は、幼兒的自己中心的傾向（傷つきやすさと尊大さの同居）、自己概念が形成されず成人しても自我同一性を確立することができないというように、自我や超自我が脆弱な若者が増えている。思春期以前の発達の問題につまずいている青年が多いということである。そのような青年には準拠集団への所属感、人と関わる体験学習が必要で、学校・社会教育の計画的・継続的な支援が不可欠である。そのためには個々の学生がより自己実現できるような援助を適切に行わなければならない、まずは学生個人の特性、環境・クラス集団の状態、集団と個人との関係性などを十分に理解しておく必要がある。その手法としては観察法、面接法、調査法などが考えられるが、調査法の一つの手法としてQ-Uによる方法が詳しく示された。現在1年生で行われている性格診断テストよりもさらに簡単なテストであるが、学生個々人の学習意欲やクラスとの関係性がグラフに現れるほか、クラス全体の状況がグラフに形として現れ、クラスの状況や問題点が把握しやすいというメリットがあり、担任にとってはクラス経営上、また問題を抱える学生の早期発見や指導に当たって非常に有益な情報になり得る。ただ、家庭との関係性が見えないという欠点があるため、現在1年生で実施されているものに加えてこの調査を取り入れて頂けると、学生指導に大変役立つと思われる。</p> <p>4. 学生の心のケア ～自殺防止に向けて～ (講師：文教大学 柳生和男教授) 昨今、社会や学校の変容に伴い、家庭での親子関係、学校では友達、師弟関係、また社会地域との関係がうまく築けず、「孤独の病」に陥る学生が少なくない。結果自殺する学生も増えている。その背景には外的、内的様々な要因が複雑に絡ん</p>

でいるため、それぞれのケースに応じて適した対応をとらなければならない。自殺を防ぐためには早期に予見し、危機的状況を過小評価せず、学生相談室や専門家とも相談しながら学生の置かれている立場や背景、気持ちを理解しながら学生に寄り沿って親身に対応することが大切である。また、一人の命は非常に重く、担当が一人でそのような問題を抱え込まないよう、周囲のサポートも大切である。

報告者自身も以前リストカットを繰り返していた学生を担当したことがあり、そのときのことを考えながら講義を聞いたが、領けるところが非常に多かった。担任した学生も幸い大事には至らなかったが、そのときの担任の精神的負担は非常に重く、報告者自身が学生相談室に足を運び、カウンセラーのアドバイスを受けて、苦しみを聞いてもらったりしながら何とか良い方向へ導くことができた。一人で抱え込んでいたら担任が潰れ、最悪の事態に陥っていたかもしれない。もし万一のことがあったとした場合、担任はその罪を一生一人で背負うようなことにもなりかねない。

担任を持つと、自殺には至らないまでも、程度の差こそあれ問題を抱える学生と向き合わなければならないことが結構多い。そのような場合、学校として担任の支援体制がしっかりしておれば、担任の負担はかなり軽減されると思われる。担任のサポートシステムについてもぜひご一考頂きたい。

この講義は学生相談室の相談員の方にもお聞き頂きたいと思った。他高専からは学生相談室の方も来られていた。

5. スクールコンプライアンス (講師：日本女子大 坂田仰教授)

このことに関しては中川教員が詳述されているので、簡単に留める。

以前は学校の中の子供達の問題に関して保護者と学校の間話し合いで解決していたような事柄が、最近ではいきなり裁判所やマスメディアに持ち込まれるケースが急増し、結果、法的に裁かれるケースが多くなってきている。そのような事態に対応していくには、以下の3点が非常に重要である。

- ・ 教員自身のコンプライアンス意識の向上
- ・ 管理責任の所在の明確化
- ・ 説明責任を果たす (ホームページや学校 (学級) 通信なども非常に重要)

また、何事も最悪の事態を想定して準備をしておくといよい。学生の安全管理マニュアルなども、養護教員が居る場合、居ない場合、救命措置を取れる教員が居る場合、居ない場合など、考えられるあらゆる場合に備えておくことが望まれる。

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 柏倉 知秀

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・研修会名など	平成21年度教育方法改善共同プロジェクト教員研究集会 (高等専門学校における「職業を通して社会に貢献できる人材」の育成)
関連部署	キャリア教育支援室
実施年月日	平成21年8月5日～6日
実施場所等	アルカス SASEBO
参加対象・参加人数等	高専教員 約120名
具体的内容 (概略)	<p>はじめに</p> <p>独立行政法人国立高等専門学校機構が主催する平成21年度教育方法改善共同プロジェクト教員研究集会が、平成21年8月5日(水)・6日(木)の両日にわたり、佐世保高専を世話校として開催された。「高等専門学校における『職業を通して社会に貢献できる人材』の育成」を研究協議題とし、全体会議(特別講演)と二つの分科会が開かれた。</p> <p>以下では、報告者が参加したキャリア教育に関係する第1分科会と特別講演の内容について報告する。</p> <p>1. 特別講演</p> <p>(1)「工業系大学におけるキャリア教育のあり方～九州工業大学情報工学部の取組み～」</p> <p>熊丸耕介氏の講演は、同氏がセンター長を勤める九州工業大学情報工学部キャリアセンターの紹介であった。その内容は、1. 情報工学部キャリアセンターの紹介、2. キャリア教育の実施状況、3. インターンシップ推進事業、4. 就職活動支援状況、5. 今後の展望であった。講演の中で印象に残ったのは、従来はそれぞれの学科の個性が強く、学科ごとに独自のキャリア教育を実施していたが、キャリアセンターの設置により、学部全体の取組みが実施できるようになった、という点である。高専でも学科の独自性が強く、学校全体でキャリア教育を実施するのが難しい、と言われているが、大学でも同様の悩みがあるようだ。</p> <p>(2)「職業観とキャリア教育」</p> <p>佐世保工業高等専門学校長の井上雅弘氏の講演は、1. 教育方法改善の必然性、2. 職業観、3. キャリア教育と職業教育、という構成であり、職業観＝キャリアアンカーに支えられたキャリアコンピテンシー(基礎学力・考える力・社会力)を構築することがキャリア教育の本質であり、キャリア教育は高専教育そのものである、という内容であった。</p> <p>2. 第1分科会「キャリアデザイン能力の育成に関する取組みの調査、検討、研究」</p> <p>第1分科会では、1件のテーマ報告と、3件の事例報告がおこなわれた。テ</p>

マ報告は佐世保高専の稲永善数氏による「全国高専職業観・就職観アンケート分析」であった。全国高専を対象に実施されたアンケート結果(約 27,000 名の回答)を基に、学生の職業観や就職観を調査し、学生の志向・傾向を知り、キャリア教育の方策に役立てようというのが趣旨である。アンケートの分析結果を受け、1. 学校に対する誇り(学生に対する全体的な規律指導と教員との密接な関わり)、2. 各学科の気質を知った上でのクラス経営術、3. 中だるみ現象の対処(早期の工場見学などの外部教育力の導入)、4. 同一環境による閉塞感からの脱出(クラブ、ボランティアなど、成績だけではない社会人教育力の養成)、5. 女子学生の入学者増加の 5 点について提言がなされた。

次に事例報告として、福島高専の松本行真氏と飯島美奈帆氏による「高専生・高校生の価値観を分析する一生徒・学生意識アンケート調査から」、東京高専の小嶋徹也氏による「女子中高生の理系進路選択支援事業テクノ・ガールズ!」、熊本電波高専の松本勉氏による「キャリア教育を視点とした国際交流プログラム」が報告された。松本・飯島報告は、上記アンケート結果から学生の価値観を「協調型」(44.2%)、「職人型」(28.9%)、「自由人」(25.1%)、「理想追求型」(1.6%)、「悲観型」(0.3%)に分類し、今後の教育方法改善ではこれらのタイプを把握した上で研究・教育指導をおこなうことが、学生の満足度を高め、将来の学生獲得につながる、という内容であった。小嶋報告は、テーマ報告の提言 5 に関する内容であり、文部科学省によって実施されている「女子中高生の理系進路選択支援事業」の成果報告であった。松本報告は、テーマ報告の提言 3 や提言 4 に関する内容であり、熊本電波高専で実施されている国際交流と交換留学、海外教育研修旅行、英語による専門科目の授業、九州・沖縄地区高専校長会主催「英語キャンプ」の紹介であった。

おわりに

以上、特別講演と第 1 分科会の報告内容について紹介してきたが、最後に、今回の教員研究集会に参加して気が付いた点について触れておきたい。今回、第 1 分科会のテーマとして「キャリアデザイン能力の育成」という言葉が使用されていたため、キャリア教育に関する具体的な事例報告に対する期待度が高かった。しかし、第 1 分科会の内容は、アンケート結果の分析とそれに関連した事例報告であり、キャリア教育の実践例についてはほとんど言及されなかった。今回の教員研究集会には、キャリア教育に対する関心が高い教員が比較的多く参加していると予想されるが、そのニーズと今回の報告内容には多少のギャップが生じていたように見受けられた。確かに、今回のアンケート結果は、今後、キャリア教育を推進していく上で重要なデータかもしれないが、もう少し具体的に、全国の高専でどのようなキャリア教育の取組みがされているのか(あるいは、取組みがされていないのか)を知りたかった。高専機構には、今回のプロジェクトで終わりとせず、今後も継続的にキャリア教育に対する取組みを続けてほしい。

※配付資料リスト

- ・ 中間報告書(事前配布)
- ・ 会議資料(冊子)
- ・ 『高専生のためのキャリアデザインへの第一歩』(佐世保工業高等専門学校キャリア教育支援室)
- ・ パンフレット(九州工業大学情報工学研究院キャリアセンター)
- ・ アンケート結果
- ・ 稲本義数(佐世保工業高等専門学校)『15 歳から 20 歳までの二万七千人の志向から想うこと』(アンケート結果の分析)

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 小川 仁志

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	留学生就職支援フェスタ
関連部署	教務主事室
実施年月日	平成21年12月25日
実施場所等	山口大学
参加対象・ 参加人数等	企業、留学生、大学等関係者
具体的内容 (概略)	<p>第一部 企業による留学生向けプレゼンテーション（中国NBC、パナソニック、東洋鋼鋳）</p> <p>第二部 大学関係者とアジア人材資金構想との意見交換会</p> <p>主な意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 留学生の就職情報は、大学側も企業側も不足している。 ・ 現在の問題点は、留学生の就職に関し、大学側の窓口が一本化されていないこと。企業もわからない。 ・ インフラとして情報の一元化と教育の一元化が求められている（例えば、日本語教育に関してもEラーニングなどで効率化することが必要）。 ・ 民間では留学生に特化したデータベースはない。コストの問題。 ・ この3年間アジア人材資金構想が全国の留学生情報を一元化し、企業とマッチングする事業を行ってきたが、事業仕分けで廃止とされた。何らかのかたちで最後の1年の面倒は見ると思う。 ・ 今後は大学と企業が自主的に連携していくしかない。 ・ OBの活用が大事になる。 ・ 山口県では、山口大学を中心とした12大学のコンソーシアムで情報を交換しながら、就職支援を行っている。現在4年目。 ・ このような就職フェスタは何とかして予算を確保し、続けていきたい。 <p>添付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フェスタの概要（HPより） ・ 意見交換会参加者リスト ・ アジア人材資金構想パンフレット

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 高橋 愛

平成21年度に実施、あるいは参加された FD 活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	第4回ワークショップ「エンジニアリング・デザイン教育」 -コンテストを利用したエンジニアリング・デザイン教育の実践-
関連部署	専攻科
実施年月日	平成22年3月6日
実施場所等	工学院大学
参加対象・ 参加人数等	41名
具体的内容 (概略)	「エンジニアリング・デザイン教育の重要性」に関する基調講演、「コンテスト型エンジニアリング・デザイン教育」の事例紹介、「エンジニアリング・デザイン教育」の実践についてグループ討議をおこなった。

活動名・ 研修会名など	新任教員研修会
関連部署	
実施年月日	平成21年8月26日～28日
実施場所等	国立オリンピック記念青少年総合センター
参加対象・ 参加人数等	各高専新任教員
具体的内容 (概略)	講演および班別に討議をおこなった。班別討議では、ロボコン等のコンテスト参加の教育効果や指導をするうえでの問題点等について議論をした。

平成 21 年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 森野 数博

平成 21 年度に実施、あるいは参加された FD 活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・研修会名など	全国高専テクノフォーラム
関連部署	テクノ・リフレッシュ教育センター（ただし自主参加）
実施年月日	平成 21 年 8 月 6 日（木）～7 日（金）
実施場所等	アルファあなぶきホール（〒760-0030 香川県高松市玉藻町 9 番 1 0 号）
参加対象・参加人数等	全国高専の産学官連携・地域貢献活動において中心的な役割を果たしている教職員など 300 名程度
具体的内容 （概略）	<p>2 日間にわたって、基調講演、パネル討論、産学官交流、プレゼンテーション（口頭事例発表）、パネル展示が行われ、それぞれに出席した。</p> <p>① 基調講演（国立高専機構理事 小田公彦） 基調講演（日亜化学工業第二部門開発本部長付 榊原康雄） 基調講演（高知県馬路村村長 上治堂司）</p> <p>② 全体パネル討論（1） 「高専，農林水産連携への挑戦－1 次産業と 2 次産業の新たな連携・融合－」</p> <p>③ 全体パネル討論（2） 「今後 10 年間に高専の果たすべき役割－教育・研究・新しい地域連携－」</p> <p>④ 産学官交流</p> <p>⑤ プレゼンテーション（口頭事例発表） テーマ：安全・安心な社会の構築を目指して（第 2 会場）</p> <p>⑥ パネル展示</p> <p>我が国の発展に向け、これから高専が果たすべき役割について、基調講演・全体パネル討論ならびに産学官交流を通じて見識を深めるとともに、意見を交換することができた。また、関心をもって進めている安全教育についても、全国高専の状況を知ることができ、有意義なフォーラムとなった。</p> <p>■ 資料：有</p>

活動名・ 研修会名など	専攻科生のための特別講演会
関連部署	依頼講演
実施年月日	平成 22 年 1 月 15 日（金）
実施場所等	熊本高専八代キャンパス
参加対象・ 参加人数等	熊本高専八代キャンパスの専攻科生約 25 名 教職員 6 名
具体的内容 (概略)	<p>当该校から、中央教育審議会高専部会専門委員の立場で、高専専攻科に対する社会的評価と将来像をもとに、専攻科で学ぶ学生に期待することなどについて講演するよう依頼を受け、次のテーマで講演し、その後質疑応答を行った。</p> <p>「社会からみた高専専攻科の評価と学生に期待すること ～中教審の議論と答申を踏まえて～」</p> <p><講演内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高専教育の現状と社会経済環境の変化 2. どのような技術者が求められているか 3. 今回の中教審での審議のポイント 4. 専攻科充実への反論で出された観点 5. それに対する審議内容 6. 高専教育の充実に向けた専攻科の役割 7. 専攻科生に期待すること <p>当日は専攻科生に加え、専攻科担当教員ならびに本科 5 年のクラス担任も参加し、熱心に聴講された。その後いただいた学生からの感想文ならびに関係教員からの感想より、当初の目的であった「専攻科で学ぶ学生の心に火をつけて欲しい」との依頼に十分応えることができたようで、満足のいく FD 活動となった。</p> <p>■ 資料：有</p>

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名：牧野 俊昭@ME

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	依頼講演の早急な対応；2件 1) 周南地区計装制御研究会での基調講演 2) H21年度ものづくり講演会・発表会での講演
関連部署	1) 周南地区計装制御研究会 2) 松江高専
実施年月日	1) H21. 9. 30 2) H22. 1. 29
実施場所等	1) 東ソー会館・2F大会議室 2) 松江高専・大講義室
参加対象・ 参加人数等	1) 約100名 2) 約90名
具体的内容 (概略)	1)、2)とも、「産学連携によるイノベーション研究を通じたの若手人材育成とその成果」について60Min講演し、プレゼン技術の向上を図った。

平成 21 年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 張間 貴史

平成 21 年度に実施、あるいは参加された FD 活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・研修会名など	平成 21 年度教育方法改善共同プロジェクト教員研究集会 (高等専門学校における「職業を通して社会に貢献できる人材」の育成)
関連部署	キャリア教育支援室
実施年月日	平成 21 年 8 月 5 日～ 6 日
実施場所等	アルカス SASEBO
参加対象・参加人数等	高専教員 約 120 名
具体的内容 (概略)	<p>1. はじめに</p> <p>本報告は、平成 21 年 8 月 5 日（水）～ 6 日（木）にアルカス SASEBO（佐世保市三浦町 2-3）で開催された表記教員研究集会のうち、第 2 分科会「ソーシャルスキル・トレーニングに特化した取組の実施、結果の検討、評価研究」に関するものである。</p> <p>2. 全体会議</p> <p>全体会議における第 2 分科会に関する特別講演として、大阪教育大学名誉教授 竹田 契一 氏 によって「豊かなソーシャルスキル・ライフを目指して ～思春期・青年期の関わり～」と題した講演が行われた。その講演の中から印象に残ったものを以下に示す。</p> <p>(1) 特殊教育から特別支援教育へ</p> <p>従来、障害をもつ児童・生徒への教育機会を確保する目的で特殊教育が実施されてきたが、学習障害（LD）、アスペルガー症候群や注意欠陥多動性障害（ADHD）などの知的な遅れのない発達障害も含めた総合的な支援を行うため、平成 19 年 4 月に特別支援教育法が施行された。これにより、障害をその児童・生徒の「特性」として捉え、学習支援と環境調整が求められるようになった。つまり、授業中に児童・生徒の性格を指摘したり特別扱いしたりしないのと同様に、この「特性」も指摘したり特別扱いしないことが求められる。</p> <p>(2) ユニバーサル・デザイン</p> <p>特別支援教育で必要なことは、基礎学力、コミュニケーションスキル、社会性・対人性スキルおよびセルフ・エスティーム（自尊心）を身につけさせることである。これらは発達障害をもたない児童・生徒にも有効であり、このことがユニバーサル・デザインと言われる理由である。具体的には、『理解しやすい教材開発や授業進行はすべての児童・生徒の理解を深める』、『口頭からではなく掲示物や配布物によるレポート提出の指示は、すべての児童・生徒が忘れずにレポートを提出することにつながる』ことを意味する。</p>

(3) 増加する発達障害

医療技術の進歩によって低出生体重児・早産児の救命率が向上し、これと発達障害との相関が認められている。今後もさらに増えることが予想されるとともに、その多くが理系に進む傾向がある。

3. 第2分科会

第2分科会では、最初に佐世保高専一般科目教授の松尾 秀樹氏による「第2部会の取り組み ソーシャルスキルに関するアンケートの結果について」と題したテーマ報告（講演）があり、続いて3件の事例報告があった。

(1) テーマ報告

ソーシャルスキル・トレーニングを実施する前段階として、高専生の状況を把握するため全国54高専から得られたアンケート結果が紹介された。これは、大分県教育センターが作成した「ソーシャルスキルのチェックシート(学校版)」を高専用にアレンジしたもので、①集団での協働行動、②集団の中での自己コントロール、③友達や大人との関わり、④コミュニケーション、⑤行動面を支える理解面、⑥身なり・清潔感の6項目、68設問からなる。

この結果より、高専生は、③に分類される「トラブル等の対処」および「他者の気持ちに配慮した対応」と⑤に分類される「自己理解」が若干低い傾向がみられた。

(2) 事例報告

事例報告では、e-Learning システムを用いた ADHD およびアスペルガー症候群の学生支援事例、保健体育教員が脳神経科学的アプローチで学生のピアサポート力向上を目指した事例、ADHD の学生の就職支援についての事例が紹介された。いずれの報告でも、支援が必要な学生に近い教員が最初に気づき、周囲のサポートを得ながら学生に対して直接的な支援を行い、一定の成果が得られてはいるが、組織的な「ソーシャルスキル・トレーニング」には至らなかったようである。

4. おわりに

特別支援教育におけるユニバーサル・デザインの重要性は、どの発表者も述べていたが、実際には発達障害の学生への対応で関係教員が忙殺され、ユニバーサル・デザインに基づく組織的な支援体制は整えられていないようであった。本校では、発達障害の診断書が提出された事例はまだないようだが、早急に特別支援教育の体制を整えることが必要であると感じた。

本校ではこれまで、キャリア教育支援室が学生のキャリア向上を目指してキャリア教育支援プログラムを実施してきたが、今後はユニバーサル・デザインに基づくソーシャルスキル・ライフスキルの向上を目指したプログラムも開発し、並行して実施する必要があると考えられる。これは学生の「コンピテンシー」や「キャリア」の土台となるもので、平成20年度に獲得を目指した学生支援GPと基本的な考え方は同じであると思われる。

以上のことから、本校における今後の課題として、以下のものが挙げられる。

- ① ユニバーサル・デザインに基づく特別支援教育体制の確立。
- ② ソーシャルスキル・トレーニングによる学生全体の底上げ。
- ③ 上記①および②に対する教職員の理解と意識の向上。

最後に、雑感だが、第2分科会では「ユニバーサル・デザイン」というキーワードは頻出したものの、「ソーシャルスキル・トレーニング」は特別支援教育

の一環であるという意識に支配されているようで、おそらくどの高専もそのように理解していると感じられた。テーマ報告の際、個々の学生が自らのソーシャルスキルを把握する方法とその後のトレーニング方法について質問してみたが、明確な回答は得られなかった。佐世保高専の井上 雅弘 校長 が、閉会の挨拶で『学生が自らのソーシャルスキルを把握することの必要性』について言及されたことが、せめてもの救いである。

以上

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 百田 正広

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	留学生交流推進会議
関連部署	教務主事室
実施年月日	平成21年11月26日
実施場所等	山口大学
参加対象・ 参加人数等	関連省庁・山口県内大学・高専・関連団体等（約40名）
具体的内容 (概略)	関連省庁・山口県内大学・高専・関連団体等が一堂に会し、留学生施策や在学または卒業した留学生に関する情報交換を行い、今後の留学生対応についての意見交換を行った。 教務主事へ関連資料を手渡し済み

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 小林 明伸

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	平成21年度独立行政法人国立高等専門学校機構主催 中国地区高等専門学校教員研修会
関連部署	
実施年月日	平成21年12月10日～11日
実施場所等	アークホテル広島（大島商船高専主管）
参加対象・ 参加人数等	中国地区高等専門学校教員
具体的内容 （概略）	<p>本研修会は「多様化する気質・資質をもつ学生に対応した技術者教育」と題して、2日間にわたり学力向上のための教育内容・方法の見直しや、人間力育成のための学生指導の工夫などに関する発表と討論を行うものである。</p> <p>特別講演 「最近の新入社員の傾向と高専教育への期待」 中国電力株式会社 流通事業本部 専任部長 奥本芳治氏</p> <p>電力需要が落ち込み全国でも中国電力のみが2桁の減収になっていという現状。来年度は学校推薦による求人活動を再開し、積極的に高専生の採用を行う計画があることも話された。昨今、子供の理科離れが叫ばれて久しいが、特に電気系の学科に興味を示す学生がずいぶんと減ってきている。小学校では、女性教諭が7から8割を占める現状で実験を含めた理科の授業などは、困難な状況がある。また、大学の学部にしても電気工学を看板にした学科がなくなり、指導する教員もいない現状で電気工学を専門とする学生の採用さえ難しくなっているという現状などをお話しされた。</p> <p>第1日 事例発表 I</p> <p>①「『キャリア教育支援プログラム』に基づく、低学年からのキャリア教育の取り組み」 (講師：徳山高専 一色 誠子)</p> <p>②「学生の学習意欲向上を目指した初期導入教育とアンケートによる学生の意識調査について」 (講師：宇部高専 准教授 藤田活秀)</p> <p>③「OJTによる学生の自主性を育む取組」 (講師：松江高専 准教授 中村賢仁)</p> <p>④「1年生への『学年団』指導の試み」 (講師：津山高専 講師 久保川晴美)</p> <p>以上初日の各事例発表の講演が終了後、記念撮影があり、情報交換会では、各</p>

	<p>高専における学生指導に関する詳しい話を聴くことができ、有意義な時間を過ごした。</p> <p>第2日 事例発表Ⅱ</p> <p>⑤「津山工業高等専門学校における『課外活動指導教員マニュアル』の作成について」 (講師：津山高専 准教授 荒木祥一)</p> <p>⑥「習熟度別クラス編成の効果と課題－『英語』と『数学』－」 (講師：広島商船高専 教授 桑田明広 准教授 平井剛和)</p> <p>⑦「呉高専における基礎科目『物理』の教育改善活動について」 (講師：呉高専 教授 笠井聖二)</p> <p>⑧「e-learning を取り入れた授業の試み－TOEIC テストの受験対策例」 (講師：大島商船高専 教授 宮奥正道)</p> <p>⑤の部活動の校務における位置づけや認識（解釈）の差についての話があった。 ⑥の英語や数学での習熟度別のクラス編成による教育の効果について話された。 下位クラスには演習中心で効果を上げたが、上位クラスには講義中心であり、効果はあまり上がらなかったようだ。</p>
--	--

平成 21 年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 重村 哲至

平成 21 年度に実施、あるいは参加された FD 活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

□所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	高等専門学校情報処理教育研究発表会
関連部署	情報電子工学科
実施年月日	21年8月27日、28日
実施場所等	長野県長野市
参加対象・ 参加人数等	全国高専教員
具体的内容 (概略)	専攻科総合実験、総合演習の教材として20年度から使用を開始した教育用 PC 及びそのプログラミング環境について発表を行った。

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名：佐賀 孝徳

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	徳山地区高等学校等生徒指導連絡協議会
関連部署	学生主事室
実施年月日	平成21年12月7日
実施場所等	キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター
参加対象・ 参加人数等	上記関係教員等（校長、PTA会長、生徒指導教員）・ 55名
具体的内容 （概略）	<p>①「安心・安全な学校づくりについて」岩国市立灘中学校教頭 太田 真（前 教育長学校安全・体育科）の講演 【内容は、学校安全への取り組みの経緯、校門の閉鎖と開かれた学校づくり、生徒指導・学校安全のそれぞれ国・県の所管の違い、学校危機(重大事故における対応、窓口の一本化)学校安全に取り組む上で（些細なことでも管理職に報告、胸騒ぎを覚えたら救急車、訓練の実施、学校保健安全委員会の必要性、安全への取り組み（やってないとは言えない）子供への支援について、保護者への対応（生徒指導上の守秘義務、「不幸中の幸い」と言わない、学校管理下、モンスターペアレントへの対応方法））</p> <p>②周南警察署（三宅俊晴）、山口県警本部生活案全部（藤井真由美）周南署管内少年検挙・補導状況、携帯電話に関わるトラブル、</p> <p>③徳山商工校長（伊藤健司）資料 <u>暴力行為増加・感情をコントロールできない児童生徒の増加、規範意識やコミュニケーション能力の低下がその背景にある</u>と文科省は指摘している。また、サッカーが勝てない理由として、選手間のコミュニケーション不足を例にとりながら、<u>親・子供・教員のコミュニケーション不足</u>があることを「クローズアップ現代」で葉指摘している。これらの話を紹介された。</p> <p>学生を教育する上で、現状認識も含め有意義であった。</p> <p>②については、昨年の教員会議で報告済みである。</p> <p style="text-align: right;">資料有り</p>

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 中川 明子

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・研修会名など	平成21年度独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）
関連部署	教務主事室
実施年月日	平成21年8月17日～18日
実施場所等	独立行政法人教員研修センター
参加対象・参加人数等	各高等専門学校から推薦されたクラス経営の中心的役割を担う教員・110名程度
具体的内容 (概略)	<p>研修内容は、「クラス経営と学生理解」、「教職員の情報モラル ～高専学生への情報モラル指導を通して～」、「生活指導上のリスクマネジメント」、「学生の心のケア ～自殺防止に向けて～」、「スクールコンプライアンス」の5講義であった。</p> <p>研修全体を通じては、担任としてあるべき姿について講義を受けたと言うよりは、組織としてあるべき姿についての講義が主であったと感じられた。以下に、各講義で、聴講者が個人的に理解した内容を簡単にまとめた。</p> <p>「クラス経営と学生理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高専のクラス経営は決して評価されていない。 ・ 学生や保護者が学校に求めているのは、教員の業績ではなく適切な学生指導である。 ・ 勤に頼るクラス運営ではなく、客観的データも取り入れよ。 <p>「教職員の情報モラル ～高専学生への情報モラル指導を通して～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報等の取り扱いについては、事前にルールを明確化し、それを校内、校外に徹底させよ。 ・ ルールを作成していることについての周知にも務めよ。 <p>「生活指導上のリスクマネジメント」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法令遵守が全ての基本（報道記事から我が身を正せ。） ・ 内なる声に耳を傾けよ。 ・ 風通しの良い、組織作りを心がけよ。 <p>「学生の心のケア ～自殺防止に向けて～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誠心誠意、学生に寄り添うべし。 <p>「スクールコンプライアンス」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンプライアンス意識を向上させよ。 ・ 危機管理を徹底せよ（最悪の状態を想定して訓練を行え!） ・ 説明責任を果たす覚悟で学校経営を行え。 <p>この中で、特に本校にとっても重要な情報であると思われた、「クラス経営と学生理解」、「スクールコンプライアンス」2講義について報告する。</p> <p>1. クラス経営と学生理解</p>

「クラス経営と学生理解」に関する講義では、講師は早稲田大学の河村茂雄教授であった。まず、現代の青年達の発達度合の現状について解説が行われた後、現代の青年達に関わる教師の在り方について講義がなされた。

この講義の中で、クラス集団の把握の仕方についての説明があり、二つの方法、日常観察と調査法（Q-U の活用など）が紹介された。調査法は、クラス経営の状況が学生達にどのように受け取られているのかを客観的に知るための一つの手段であり、指導と援助を行う以前に、この現状把握が大変重要であるとの説明がなされた。

Q-U については、開発者であり、今回の講師であった河村教授の HP、<http://www.waseda.jp/sem-kawamura/qupage1.html> に詳しいので、省略する。

講義中に、実際に hyper-QU を体験する機会があった。実習形式で、学生がクラスの中でどのような立ち位置にいるのかを体験するために、教員自身が学校集団の中の自分の位置を知るという作業を行ったが、この体験を通して、集団の中の個人の立ち位置を把握することの重要性が理解できた。

クラスの現状を客観的に把握することは、より良い学生支援、学級経営、担任の心の健康につながると感じられた。また、学級経営が上手くいかない状況が把握できた場合には、学校としての対応を講じることも可能になると考えられる。

高校用の hyper-QU の価格は、一人当たり 500 円であるが、hyper-QU を用いることでより良い学級経営につながるのであれば、是非、本校でも活用を検討してはどうかと考える。

2. スクールコンプライアンス

「スクールコンプライアンス」に関する講義では、講師は日本女子大学の坂田仰教授であった。教育訴訟の変遷について解説がなされた後、学校が提訴されるケースが非常に増えている現状（かつてはインフォーマルな紛争解決システムが機能し、双方の話し合いで決着が付いていたような事項でも、昨今はいきなり法的な異議申し立てが行われる。）に対し、どのような対策を行うべきであるかについて解説がなされたが、最も重要なのが教員のコンプライアンス意識・危機管理意識の向上、そして、説明責任を果たすことであるとの結論であった。

以下、若干の詳細を記述する。

裁判所は、公立学校教員に厳格なコンプライアンス・倫理観を求めていることが判例分析から伺える。部活動好意同乗事故国賠訴訟例（鹿児島地方裁判所平成 12 年 5 月 19 日判決）では、部活の顧問教員が好意で自家用車に生徒を乗せていた際の事故に対し、一部賠償責任が問われた。学校内では自家用車に生徒を同乗させることは禁止されていたが、交通事情により、やむを得ず、同乗させていた面があり、校長は黙認していたものだが、この点が厳しく判断されたとのことであった。

身体の状態などについて専門知識を持つ教員はより厳しく責任を追究される傾向にあるが、専門知識を持っていない教員に対しても、熱中症に対する対応の仕方について責任を問われたケースが紹介された。このことから、例えば、AED が設置されていても、使い方を教員が理解しておらず、結果的に学生を助けられなかった場合は、遺族感情はより悪くなるし、学校の責任を追究される可能性もある、との指摘がなされた。このことから、学校の危機管理マニュアルは、最悪のことを想定して作っておくべきであるし、教員の、最低限の技能・知識習得の努力が大切との指摘があった。（本校にも AED は設置されているが、実際に使用する段に正確に使用できる教員がどれだけいるかどうかについては不安が感じられるところであり、研修会などを開催していただき、実際に使用できるよう、スキルアップを図れるような機会を作っていただければと思います。）

	<p>そして、色々な方面との良好な関係を築くためにも説明責任（参画の前提としての資料提供）の重要性が指摘された。説明責任を果たそうと行動することが学校内の風通しの良さ、コンプライアンス意識の向上につながるものと期待できる、とのことであろう。</p>
--	--

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 海田 辰将

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・ 研修会名など	教員間相互の授業参観・評価（愛媛大学）
関連部署	愛媛大学工学部 環境建設工学科
実施年月日	平成21年6月
実施場所等	各講義室
参加対象・ 参加人数等	全教員
具体的内容 （概略）	教員の教授能力における資質向上を目的とし、教員間相互の授業参観を実施した。学生による授業評価が高い教員の授業を直接見学することで、自身の授業体制を見直し、教授能力の向上に役立てる。

平成21年度 FD 活動報告書（個人）

氏名： 桑嶋 啓治

平成21年度に実施、あるいは参加されたFD活動について記入してください。複数ある場合は表をコピーして記入してください（記入欄の大きさは変更可）。

※所属する部署から派遣された場合は、「関連部署」欄へ部署名を記入してください。

活動名・研修会名など	就職キャリア支援研修会
関連部署	キャリア教育支援室
実施年月日	平成21年9月2日～4日
実施場所等	東京国際交流館 プラザ平成
参加対象・参加人数等	大学、高専のキャリア支援業務従事者 120名
具体的内容 (概略)	<p>プログラム内容 グループ別討議</p> <p>8名で編成されたグループにおいて、学校の現状や問題点を話し合った。各校とも問題は様々であり、就職支援には学校全体として取り組んでいたり、学科毎に指導しているなど様々であった。中には、3、4年生を対象として100社程度の企業を招いて企業パネル展を実施している高専もあった。また、離職についても話題があり、ある高専では1/3が転職していたと報告された。</p> <p>文部科学省講演 第2のロストジェネレーションを作らないことが大切である。生活支援、就職支援を通して社会力を育成するプログラムの開発が望まれていることや、薬物乱用も大きな課題となってきたことについても話があった。</p> <p>講演と演習 大学等における就職キャリア支援の在り方について講演があった。紙に書き出すくらい丁寧にコミュニケーションを取ることが大切であることが強調された。演習は「(試験に)合格できるでしょうか」という内容で、筆談によって会話が実施された。「大丈夫」という安易な返事は使わないように心がけるよう指導があった。</p> <p>グループ別演習 就職キャリア支援担当者に必要なコミュニケーションスキルを身につけるため、「(就職の)内定がもらえるでしょうか」という内容で、それぞれのペアで演習を行うと同時に、グループ内でその様子についてコメントしあった。また、依存的な体質の学生に対して有効な就職キャリア支援プログラムの開発を6名のグループで話し合い、発表を行った。</p> <p>DVD教材を用いたキャリアカウンセリング演習 「まだ就職が決まらない」、「無業で卒業する」、「エントリーシートが書けない」等のモデルケースに対して、よい対応の例、悪い例を紹介し個々の学生への支援について話があった。</p>

研修会に参加して

キャリアカウンセリングについてのスキルは向上したと実感した。全体を通して演習が中心に組み立てられており、話を聞くだけではないので理解度は深まった。また、初日に実施した演習で筆談によるコミュニケーションは、普通の会話とは異なり言葉を慎重に選ぶようになるため、3年生に実施したVPI検査結果を見つめ直すときの手法として、取り入れると面白いと感じた。